

# 径山寺

「径山寺」は、仏教用語ではないのですが、日本の文化や西光

仏の慈悲心に  
圏外なし

茗荷仏

寺チャンネルでも登場するお寺ですのでご紹介となりました。

径山寺は、七四五年、唐の時代に禅宗の宗派の一つ、牛頭宗として開かれました。その後、宋の時代になると、臨済宗へと変わります。場所は、浙江省杭州市の径山です。上海の南西部に位置します。臨済宗に変わってから、五山のひとつとして代表的な寺院となりました。

日本からはアクセスのしやすさから、留学先として人気となりました。そして、留学僧が学んできたのは仏教だけではなく、文化も学んできました。

十三世紀、留学僧覚心はなめ味噌の製法を和歌山県に持ち帰り、その後金山寺（径山寺）味噌となりました。

また、金山寺味噌の製造過程で出る液体を発展させてたまり醤油となりました。



茶道においても、径山寺で行われていた儀式や茶道具が、留学僧により日本に伝えられています。西光寺チャンネルでは「シングタ」で、径山寺に留学した平四郎の話配信しています。是非ご覧ください。

## こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

# 苦

以前、外出先で娘がラーメンを食べた時に、「こんなおいしいラーメンは食べたことがない。」と言いました。連れて行った親

としてはうれしい言葉です。さらに娘は続けました。「もう他のラーメンは食べられない。」といいました。さあ、これには参りました。それからというもの、他のラーメンではおいしいということがなくなつたのです。娘の心に、こだわりが芽生えたのです。

皆さんはこういうこだわりはないですか。味噌はここがいい、醤油はここだ。海苔はここが一番だ。食べ物以外にもあることでしょう。知識や経験を積んでいくと、あつちのほうがいい、こつちのほうがいいと出てきます。

実は、これは「煩惱」であり、「苦」の素でもあるのです。「こだわり」は「執われ」なのです。

素晴らしいものと出会えた、最愛の人とめぐりあえた、そうするといずれは素晴らしいものと別れ、最愛の人と別れなければなりません。いかんしがたい「煩惱」であり、「苦」の素

でもあるのです。

仏教のスタートは、お釈迦様が「生きていくことは苦しいな、思うようにならないな、いかんともしがたいな」から始まりました。

